育成 モノづくり人材 Vol. 39

三重県立 四日市中央工業高校

全日本ロボ相撲の強豪校

石油化学コンビナート立の三重県立四日市中央工業高校（四中工）で有名な三重県四日市市。工業都市を支える人材の育成の一端を担うのが1962年創立の三重県立四日市中央工業高校だ。開校以来、モノづくり教育に力を注ぎ、地元の企業を中心に多くの卒業生を送り出している。社会人になって人間関係でつまずかないよう、渋谷順市校長は「入学と同時に、1年生にはクラブ活動に全員参加するよう指導している」という。

四中工はクラブ活動が盛んな高校としても知られる。特に輝かしい歴史を持つサッカー部は「全国高校サッカー選手権大会」で91年に優勝。77年、85年、2011年には準優勝の成績を収めた。ほかに柔道部、水球部、ウエイトリフティング部も全国大会出場実績が多い。

スポーツ系クラブと肩を並べるほど有名なのが、ロボット研究部だ。ロボット研究部の創部は、93年に「全日本ロボット相撲全国大会」のラジコン型の部で進優勝したのがきっかけ。機械科の課題教育の一環で参加し、以来同大会では好成績を収め、強豪校となった。創部当時の部員に三重木型製作所（三重県四日市市）の森大介社長がいる。森社長は、独自開発した柔軟なロボット外装を発注し、国際ロボット展などに「YaWaRaKaロボD」を出品し、注目された。

渋谷校長

【DATA】▷校長＝渋谷順市氏▷所在地＝三重県四日市市▷学科＝機械科、電気科、化学工学科、都市工学科、設備システム科▷総定員＝720人▷主要設備＝コンピューター数値制御（CNC）旋盤、CAD、産業用多関節ロボット、プログラマブルコントローラー（PLC）制御システムなど▷主な進路＝JSR、アイシン・エィ・ダブリュ、出光ユニテック、東ソー、中部電力、東邦ガス、東芝、住友電装、三菱電機、デンソー、ホンダなど

産業用多関節ロボットを操作するロボット研究部員

同部ではロボットのボディー製作、プログラミングなど各パートに分かれて部員たちが作業する。ボディー製作は校内にあるマシニングセンター（MC）や平面研削盤などを駆使して部品から作り上げる。部員たちは先輩の工作技能を伝承しつつ、さらに強く俊敏な競技用ロボットを作り出す技を磨く。

こうしたクラブ活動の成果は、卒業生の就職にも反映されており、「卒業生の離職率が低く、地元企業からの評価も高い」（渋谷校長）という。最近では、地元との交流を強化する目的で、四日市商工会議所との連携を始めた。

同会議所の青年部の会員たちからアドバイスを受け、ヒノキ製の足湯などを製作し、デイサービス施設に寄贈している。四中工はモノを作ることと同時に、若者の人格を形成する重要な役割を担っている。

（三重支局長・堀信一）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社